

ON THE COVER

草間彌生「南瓜」

「ベネッセアートサイト直島」は、瀬戸内海の直島、豊島、犬島を舞台に、ベネッセホールディングス、(公財)福武財団が展開するアート活動の総称。ベネッセグループの企業理念である「Benesse=よく生きる」を考える場所として、活動をつづけています。



株式会社ベネッセホールディングス

IR部

〒206-0033

東京都多摩市落合1-34

TEL: 042-357-3656

E-mail: tokyoir@mail.benesse.co.jp

URL: <https://www.benesse-hd.co.jp/ja/>



一生成長する力。

Benesse Report 2023



bene「よく」 + esse「生きる」
Benesse = 『よく生きる』

ベネッセグループ企業理念

bene「よく」 + esse「生きる」
Benesse = 『よく生きる』

Benesse。それは、「志」をもって、夢や理想の実現に向けて
一歩一歩近づいていく、そのプロセスをも楽しむ生き方のこと
私たちは、一人ひとりの「よく生きる」を実現するために
人々の向上意欲と課題解決を生涯にわたって支援します
そして、お客さまや社会・地域から支持され
なくてはならない企業グループとして、いまと未来の社会に貢献します

※Benesseは、ラテン語のbene(良い、正しい)とesse(生きる)を一語にした造語です

ベネッセグループ行動指針

ベネッセグループは人を軸とし、グローバルに活動する企業グループです。
私たちは、一人ひとりの行動そのものが「Benesse=よく生きる」の実現に繋がること、
企業人である前によき市民・よき社会人であるべきことを自覚し、
この行動指針に則って行動します。

私たちが大切にすること

何事にも誠実に向き合います 何よりも信用を重んじます 常に挑戦し革新し続けます

私たちが約束すること

- お客さまに 全ての行動の原点はお客さまにあります。私たちは、お客さまの立場で考え抜き、お客さまの今と未来の課題解決に繋がる真の価値を創造し、期待に応え続けます。
- 共に働く仲間たちに 私たちは、お互いの成長とチームワークを大切に、公正で活気に満ちた職場をつくります。
- 取引先の皆さまに 私たちは、お取引先を、ともに価値を生み出す大切なパートナーと考え、ともに発展することを目指し、信頼関係に基づいた適切な関係を保ちます。
- 地域・社会に 私たちは、事業を通して、赤ちゃんからお年寄りまですべての人々が安心して暮らせる環境づくりに貢献し、豊かな社会の実現を追求します。
- 株主の皆さまに 私たちは、株主の皆さまから永きにわたって信頼していただけるよう、成長し進化し続けます。



Benesse
Group
Purpose



ベネッセグループパーパス

誰もが一生、成長できる。
自分らしく生きられる世界へ。
ベネッセは目指しつづけます。

Benesse = 『よく生きる』という企業理念のもと、
これから我々が目指す経営の軸を、「グループパーパス」として公表しました。

ベネッセグループは、「人」の可能性を信じるという信念のもと、
すべての人に可能性があることを社会へ呼びかけつづけます。
そして、この社会の大きな変化の中で、「未来」「グローバル」「社会システム」をも包含する、
自分らしく生きられる「世界」の実現を、粘り強く追いつづけていきます。

そしてその「世界」の実現に向け、力強く挑戦しつづけていきたい。
すべてのライフステージで、「人」にかかわる、
社会課題の解決に貢献していくグループであるために。
それが、ベネッセグループのパーパスに込めた思いです。



「南瓜」草間彌生 ©YAYOI KUSAMA

Benesse Art Site Naoshima



「Benesse Report 2023」制作にあたって

ベネッセアートサイト直島 || 一生成長できる場所

私たちは2023年4月、「グループパーパス」を施行し、
5月にはパーパスの実現に向けた「変革事業計画」を発表しました。
「Benesse Report 2023」は、
新たなグループパーパスと「Benesse = よく生きる」という
企業理念を体現する場所である「直島」をテーマとしています。



人と社会とずっと成長していく ベネッセの「あゆみ」。

》》創業(1955年～)

創業者 福武哲彦の 「教育」にかける強い信念

▶ 岡山を拠点に、高校生向けの模擬試験事業や、現在の「進研ゼミ」につながる通信講座を開講。通信教育市場が顕在化していない中、新たなコンセプトの商品で自ら市場を開拓し、会員数を拡大



左：小学校教師などを経て福武書店を創立した創業者の福武哲彦
右：「福武の心～ひとすじの道～」創業者の想いをまとめた本。そのDNAは現在の社員にも受け継がれている。

》》1990年代

「Benesse」のもと、 事業の多角化を推進

- ▶ 1995年、商号を「株式会社ベネッセコーポレーション」に変更
- ▶ 少子高齢化、共働き世帯の増加などの流れを見据えて、介護・保育事業に進出、妊娠・出産・育児雑誌「たまごクラブ」「ひよこクラブ」を創刊
- ▶ グローバル化の進展を背景に、海外展開や語学事業を開始



新社名のロゴとキャラクター

》》2000年代～

教育と介護事業を進化

- ▶ 学校事業の拡大や、学習塾のグループインなどにより、教育事業がさらに拡大
- ▶ 高齢者向けホーム事業に本格参入、介護事業は第二の柱に成長
- ▶ 「個人情報漏えい」により失った信頼回復に取り組み、再発防止策を徹底
- ▶ 教育事業はデジタル活用を一層進め、個別の学びによりそう学習を追求



》》2020年代～

2023年変革事業計画を発表

- ▶ 2023年、グループパーパスを公表
- ▶ 2023年、事業環境の大きな変化を踏まえ、中期経営計画をブラッシュアップした「変革事業計画」を発表



グループパーパスを公表

1955 創業

- 1962 高校生向け「関西模試」を開始
現「進研模試」
- 1969 高校生向け通信教育講座
「通信教育セミナー」を開講
現「進研ゼミ高校講座」
- 1972 中学生向け通信教育講座
「通信教育セミナー・ジュニア」を開講
現「進研ゼミ中学講座」
- 1980 「進研ゼミ小学講座」を開講

- 1988 「進研ゼミ幼児講座」を開講
現「こどもちゃれんじ」
- 1989 台湾で幼児講座を開講



通信教育セミナー創刊号



小五チャレンジ創刊号



進研ゼミ幼児講座 開講時の教材セット

1990

2000

- 2003 「進研ゼミ」学力別教材導入
- 2006 (株)お茶の水ゼミナールを子会社化
学習塾事業への進出
- 2006 中国で幼児向け講座を開始
- 2007 (株)東京個別指導学院を子会社化
- 2008 「進研ゼミ中学講座+i」開講
次世代化へ
- 2009 (株)東京教育研を設立
鉄緑会事業の承継

2010

- 2011 「株式会社ベネッセコーポレーション」が
インドネシアに駐在員事務所を開設
- 2012 (株)アップを子会社化
- 2014 (株)ミネルヴァインテリジェンス
(現(株)ベネッセビースタジオ)を子会社化
- 2015 (株)ベネッセi-キャリアを設立
- 2015 米国Udemy社と包括的業務提携契約を締結
- 2019 Classi(株)、(株)EDUCOMを子会社化

2020

- 2023 SkyHive社と業務資本
提携契約を締結
- 2023 (株)Warisを子会社化

教育

生活



たまごクラブ創刊号表紙

ひよこクラブ創刊号表紙

サンキュ!創刊号表紙

- 1993 妊娠・出産・育児雑誌
「たまごクラブ」「ひよこクラブ」創刊
- 1996 生活情報誌「サンキュ!」創刊

- 2002 「いぬのきもち」創刊
- 2004 「たまひよの内祝い」リリース
- 2004 「ねこのきもち」創刊

- 2019 (株)コドモンと業務提携契約に続き
資本提携契約を締結
「保育ドキュメンテーション」スタート

介護・保育

- 1995 「ホームヘルパー 2級養成講座」開講
- 1997 「ベネッセホームくら岡山」開設

- 2000 介護事業の運営会社
(株)ベネッセケアを設立
伸こう会(株)を子会社化
- 2003 ベネッセの介護事業会社を統合
(株)ベネッセスタイルケアを設立

- 2010 (株)ボンセジュールを子会社化
- 2012 (株)ボンセジュールを
(株)ベネッセスタイルケアに合併
- 2013 配食サービス事業を行う
(株)ベネッセパレットを設立
- 2014 介護相談サービス事業を行う
(株)ベネッセシニアサポートを設立

- 2021 (株)プロトメディカルケア
(現(株)ハートメディカルケア)を
子会社化

人と社会とずっと成長していく ベネッセの「強み」。



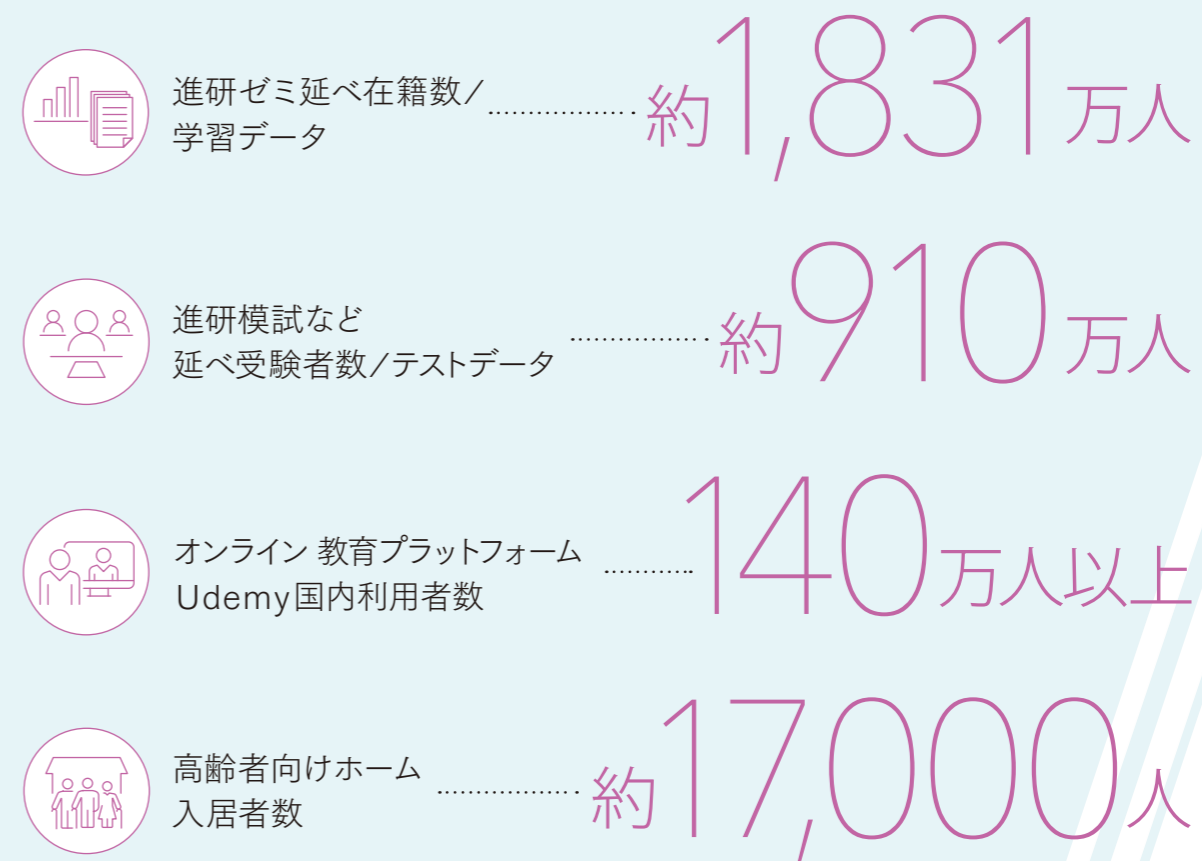
》》 Material 製造・人的資本



》》 Brand 知的資本



》》 Network 社会・関係資本



INDEX

目次

- 01 グループ企業理念／行動指針
- 03 ベネッセグループパーパス
- 05 「Benesse Report 2023」制作にあたって
- 07 ベネッセの「あゆみ」
- 09 ベネッセの「強み」
- 11 目次

- 82 特集 ベネッセアートサイト直島

- 51 At a Glance
- 53 国内教育事業
- 58 特集 大学・社会人事業
- 61 Kids & Family事業
- 63 介護・保育事業

- 68 コーポレート・ガバナンス
- 79 株主・投資家とのコミュニケーション
- 80 投資家情報
- 81 グループ情報

CHAPTER 01

「一生成長する力」で、
新たな未来へ挑戦する。

【ビジョンと戦略】

ベネッセグループが自身の将来像をどのように描き、どのような決意で挑もうとしているのか。価値創造に向けた中長期的なビジョンと戦略を、ここにご紹介します。

- 15 ベネッセの価値創造プロセス
- 17 CEOメッセージ
- 23 CSOメッセージ
- 27 CFOメッセージ
- 30 財務ハイライト
- 31 CDXOメッセージ

CHAPTER 02

「一生成長する力」で、
次の時代を創造する。

【マテリアリティ】

私たちは激変の時代を読み解きながら、マテリアリティについて、幾度も議論を重ねてきました。すべては次世代を力強く生き抜くために。ベネッセグループの新たな取り組みは、もう始まっています。

- 37 マテリアリティの改定
- 39 パーパスの実現に向けて
- 41 多様化、多層化する学びに対する支援と意欲を高める教育の実現
- 42 学びを通じた企業の持続的成長と個人のキャリア開発支援
- 43 ご高齢者の“その方らしさ”の追求と介護をとりまく構造課題の解決
- 44 変革を推進する組織と人の育成
- 46 持続可能な地球環境の保全
- 48 非財務ハイライト

CHAPTER 03

「一生成長する力」で、
人生100年時代を
支えていく。

【価値創造報告】

一つひとつの活動をさらに練り上げ、磨きをかける。新たな挑戦に臆することなく前進する。それぞれのライフステージごとの理想の姿を叶えるべく、ベネッセグループは、新たな価値を創造しつづけています。

編集方針

本レポートは、投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに、中期経営計画「FY2021-2025 コア事業の進化と新領域への挑戦」(2020年11月公表)と中期経営計画のアップデートである変革事業計画に基づくベネッセグループの価値創造に向けた中長期的な戦略・取り組みをご理解いただくことを目的として発行しています。編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)、経済産業省「価値協創ガイド」の開示フレームワークを参照し、重要度の高い内容に絞り、簡潔でわかりやすい構成を目指しました。なお、Webサイトでは、より詳細なIR情報、ESG関連情報などを掲載しています。

●対象期間

2022年度(2022年4月～2023年3月)の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや2023年4月以降の活動も掲載しています。組織・役職名は、2023年6月24日現在のものを記載しています。

●対象範囲

(株)ベネッセホールディングスおよび連結子会社の活動について報告しています。なお、特定の報告範囲を示す場合は、各掲載ページに記載しています。

見直しに関する注意事項

本レポートに掲載されている現在の計画、見直し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見直しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により現在の見直しとは異なる可能性のあることをご承知おください。